

点滴注が著効を示した。症例3に対してはPGE1による点滴静注が有効であると思われた。

【考察】毒ささこによる激痛発作には麻酔科的治療以外には有効な手段はない。上記治療が有効であったことより、交感神経緊張による血管収縮が激痛発作に関与していると思われた。

21 当院における乳癌末期患者に対する麻酔科的疼痛治療の検討

高田 俊和・丸山 洋一・高橋 隆平
海老根美子

新潟県立がんセンター新潟病院麻酔科

乳癌末期患者20例に麻酔科での疼痛治療を施行した。麻酔科受診時、多発脊椎転移16例・肝肺転移8(12)例があり腰下肢痛15例・体動時痛14例等を訴えた。平均モルヒネ投与量37mg/日、平均ジクロフェナク78mg/日(18例)に加え抗不安薬・制吐剤等が投与されVAS 7.8±0.4と高かった。受診後フェンタニールパッチ4例・リン酸コデイン6例、平均ジクロフェナク88mg/日(9例)に加え抗うつ剤・Naチャンネル阻害剤が投与されVAS 6.6±0.7(P<0.01)と有意に低下したが著効に致らなかった。本疾患では多発脊椎転移・肝肺転移・NSAIDsの頻用・長期化学療法(平均40ヶ月)に伴う造血機能低下を認め薬物鎮痛療法が主体であったが、鎮痛薬・鎮痛補助薬の変更により疼痛改善を計り加えて治療の工夫が必要と考えられた。

22 開業五年 忘れられない五症例

穂苺 環・穂苺 豊

ほかり医院

新津市で整形外科医の夫と一緒に、内科、麻酔科を標榜して開業し、丸五年が過ぎ、今までに印象に残った五症例を報告する。

腰痛患者で、副甲状腺機能亢進症が見つかったケース。リウマチ因子が陰性だったが、徐々に典型的な慢性関節リウマチになったケース。転倒後の上腕痛から悪性腫瘍の頸椎転移が疑われたケー

ス。多彩な痛みの訴えから、脊椎転移の発見が遅れたケース。椎間板炎による急性腰痛症。以上の五例である。

今後も整形外科と十分な症例検討を行ない、正確な診断と適切な治療により、地域医療に貢献していきたいと思う。

23 当院ICUにおけるエラスポール®の使用経験

肥田 誠治・大橋さとみ・本多 忠幸
遠藤 裕・小村 昇*・山本 智*
風間順一郎*

新潟大学大学院医歯学総合研究科器官
制御医学講座救命救急医学分野
新潟大学附属病院集中治療部*

2002年7月から2002年11月までに新潟大学医学部附属病院ICUで、Systemic Inflammatory Response Syndrome(SIRS)を伴う急性肺障害に対しエラスポール®を使用した11症例を対象として、SIRS診断項目数、肺障害度、臓器不全重症度(Sequential Organ Failure Assessment[SOFA] score)と有効性との関連性を検討した。改善症例に対し、無効症例は、入室時からエラスポール使用時にかけて肺障害が進行し、SOFA scoreは使用時に有意に悪化していた(P<0.05)。多臓器不全の重症化が、有効性に影響を与える可能性が示唆された。

24 ICUで発症した緊張性気胸2例

大橋さとみ・肥田 誠治・本多 忠幸
遠藤 裕・山本 智*・小村 昇*
風間順一郎*

新潟大学大学院医歯学総合研究科
救命救急医学分野
同 医学部附属病院集中治療部*

ICUで経験した緊張性気胸の2例を報告した。

症例1は肺炎患者で気管切開術後に緊張性気胸が明らかとなった。原因として、術前日の鎖骨下静脈穿刺、気管支鏡検査時の咳、気管切開術が疑われたが、明らかでなかった。胸膜癒着のため非

典型的な胸部レントゲン写真像を呈し、確定診断にCT検査が必要であった。

症例2は食道破裂術後患者で、両側胸腔ドレーンチューブが挿入されていたが、エアリークは見られていなかった。プレッシャーサポートによる補助呼吸中にドレーンバックが破損し、空気が引き込まれて緊張性気胸を発症したと考えられた。

ICU患者では、比較的まれな原因による気胸や通常と異なるレントゲン写真像も念頭におくべきであると考えられた。

25 受傷8日後に急性循環不全に陥った一酸化炭素中毒の一症例

木下 秀則・田中 敏春・広瀬 保夫
山崎 芳彦・岡崎 悦夫*・渋谷 宏行*
国分誠一郎**・清水美弥子**
北原 泰**・佐久間一弘**
伝田 定平**

新潟市民病院救命救急センター
同 臨床病理部*
同 麻酔科**

今回我々は急性期を経過した受傷8日後に突然、治療抵抗性の急性循環不全に陥った一酸化炭素中毒の一例を経験した。一酸化炭素の毒性機序としてヘモグロビンとの結合による酸素運搬障害が知られているが、その他のヘム蛋白に結合することによる細胞レベルでの酸素利用障害も看過できない。本例では病理所見から心筋壊死の原因が心筋梗塞ではなく、細胞レベルでの酸素利用障害に起因するものと考えられた。

II. 特別講演

「自分が満足する基礎・臨床研究」

札幌医科大学麻酔学講座
山 蔭 道 明

第1回新潟HIVカンファランス

日 時：平成9年12月19日（金）
午後6時～8時
場 所：新潟大学医学部
有壬記念館

特別講演

1 エイズ拠点病院としての長岡赤十字病院の取り組み

長岡赤十字病院 看護部
淡 路 記 伊

2 HIV感染症 治療法の進歩

東京大学医学部 第1内科
木 村 哲

第2回新潟HIVカンファランス

日 時：平成10年11月13日（金）
午後6時30分～8時30分
場 所：新潟東映ホテル

特別講演

1 HIV診療におけるコーディネーターの役割

新潟大学医学部附属病院 看護部
エイズ予防財団 リサーチレジデント
前 田 正 美

2 AIDS治療の新展開とその問題点

熊本大学医学部 第2内科
満 屋 裕 明